
 学 会 記 事

第 16 回新潟 GHP 研究会

日 時 平成 26 年 2 月 15 日 (土)
午後 3 時 40 分～
会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟

I. 一 般 演 題

1 向精神薬を内服中に持続勃起症と白血球減少をきたした 1 例

茂木 崇治・福井 直樹・須貝 拓朗
竹原 裕美・池嶋 寛子・染矢 俊幸

新潟大学医歯学総合病院精神科

【はじめに】向精神薬内服に伴う持続勃起症や白血球減少は非常に重篤な副作用であり、注意が必要である。2006 年～2009 年の米国の救急医療の現場では、計 32,462 例の持続勃起症患者が発生した。それは 1 年につき、男性 10 万人あたり 5.34 人/年の発生率であった。今回我々は、trazodone 増量後に出現した持続勃起症の治療中に、白血球減少をもきたした 1 例を経験したので報告する。

症例は 40 歳、男性。X 年 4 月、職場内の異動をきっかけに、抑うつ症状と不安が出現した。5 月 1 日より trazodone 25mg 処方され、6 月 26 日に trazodone 50mg へ増量された後より、勃起が 2～3 日続き自然に消失することを繰り返すようになった。7 月 15 日より陰茎勃起状態が持続し、A 病院泌尿器科にて持続勃起症と診断され、内服薬は速やかに中止され、同日に当院泌尿器科を紹介受診しシャント手術を施行された。手術後に持続勃起症は消滅し勃起機能はある程度保たれた。また、7 月 18 日の血液検査にて WBC 19,450 と高値、7 月 22 日の WBC 1,880 と著明な減少が認め

られたが、8 月 1 日には WBC 6,300 と自然軽快した。

【考察】本症例では、trazodone 増量後に持続勃起症が出現している。また、trazodone による副作用についても数多くの報告があり、本症例においても、trazodone がその原因と考えられた。また本症例における白血球増多に関しては、静脈性の持続勃起症に伴う細胞壊死によると考えられる。Clozaril に代表される薬剤性の白血球減少の場合は、通常薬剤使用開始後 7～21 週で顆粒球減少が出現するが、本症例において、白血球上昇の後数日での急激な低下については、持続勃起症に伴う激しい細胞壊死により、白血球再生が追いつかず一時的な減少をきたしたと考えられる。

我々は、向精神薬内服に伴う性欲低下や射精障害等の性機能不全については少なからず経験しているが、一方で持続勃起症などの早急な対応が必要となる副作用についても見逃さぬよう、日々の診療における注意が必要であろう。

2 Voxel - Based Morphometry (VBM) で脳幹白質体積の減少を認めた REM 睡眠行動障害の 1 例

大竹 将貴・井上絵美子・北村 秀明
染矢 俊幸

新潟大学医歯学総合病院精神科

REM 睡眠行動障害 (RBD) は、Parkinson 病や Lewy 小体病、多系統萎縮症などの α -synucleinopathy にしばしば関連してみられる、老年期に多い睡眠時随伴症であり、REM 睡眠期における骨格筋の運動制御に関する脳幹部の解剖学的・機能的異常が推定されている。今回我々は、臨病的に α -synucleinopathy を認め、Voxel - Based Morphometry (VBM) により脳幹部白質体積の減少を認めた RBD の 72 歳男性の症例を経験した。

症例は X-3 年より「人に襲われる」、「追いかけられる」等の内容の、不快気分を伴う悪夢を頻繁に見るようになった。X-1 年より入眠中に、大